

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	立命館アジア太平洋大学
整理番号	B - I - 7
事 業 名	APU-SEU グローバル協働教育プログラム—入学前教育から大学教養・専門教育まで

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) A	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p> 交流プログラムの枠組みについては、入学前留学プログラム、クォーター留学の実施、第3国での協働学習プログラムの開発等の先導的な取組が、セント・エドワーズ大学 (SEU) との連携によって概ね順調に実行された。また、バディシステムによる支援、学び合いを促進するラーニング・コミュニティ、eポートフォリオ上での励まし合い、過去の参加学生のピア・アドバイザーとしての活用など、立命館アジア太平洋大学 (APU) と SEU の学生が様々な形でプログラムに主体的に関わる機会が提供され、学生の学びに肯定的な役割を果たしている。一方で、キャップ・ストーン科目 300 は実施に至らなかったため、実現に向けた取組が望まれる。 </p> <p> 単位換算方法や成績評価方法などについては、両大学間で協議・調整が十分になされ、質の保証が担保されている。多様なアセスメント手法が開発、運用されており、事業の成果を多角的に検証している。APU と SEU の協働授業のために、シラバスや授業コンテンツを2大学の教員が協働で作りに上げるという手法は、教員同士の情報交換、スキルアップの機会につながっている。更に、職員の異文化理解力や交渉力も本事業のスタッフ・ディベロップメントを通じて育成されており、教職協働による効果的な運営がなされている。 </p> <p> 学生交流のための環境整備については、これまでの学生の派遣・受入の支援基盤が更に強化され、特に、学生の派遣では、留学前、留学中、留学後にわたって、学生同士による支援や学び合い、事前・事後学習の徹底、個別アドバイジング等の多面的な学生支援が行われている。 </p> <p> 事業の実施に伴う情報の公開、成果の普及については、本事業での取組が、学会誌や国内・国際学会において精力的に発信されている点は高く評価できる。また、日英両語のウェブサイトを通じて情報公開が効果的に行われている。 </p> <p> 目標の達成状況については、一定の外国語力スタンダードを達成した学生数は、目標値の半分も達成できなかった。また、プログラム開始前と終了時の TOEFL 平均点についても目標値を大きく下回った。日本人学生の派遣数は目標を下回る結果となったが、外国人留学生の受入数は目標を上回った。協働ダブル・ディグリー・プログラム (DUDP) の交流学生数の目標達成には及ばなかったが、課題の把握、学生への周知が改善され、平成27年度の募集では、10倍の競争率になっており、今後の発展が期待できる。 </p> <p> 大学教育のグローバル展開力強化に資する取組が全学で実行されており、他大学への波及効果に留まらず、日本の高等教育全体に実践的影響力をもたらす事業が展開されたと言える。 </p>